

大阪市立大江小学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付・加算配付】実施報告書 (補足説明資料)

I. 基本配付について

1. 本校の現状と課題、年度目標

本校は、明治7年(1874年)に創立された歴史と伝統のある学校である。親子三代以上に渡って本校に通う地域の方も多く、保護者や地域の方々にとっても、本校に対する期待と誇りは非常に大きなものがある。長い歴史と受けつがれた伝統を引き継ぎつつ、一方で、新たな実践を取り入れながら、未来を生き抜く子どもたちのために教育活動を開催している。

本校の児童の規範意識は高く、きまりや規則を守って生活しようと努力する態度が見られる。また、相手のことを考えた発言や行動ができる児童が多いのも本校の特長である。万一、相手を傷つけてしまったときには、指導を素直に受け入れ、いじめの問題にきちんと向き合い解消しようとする気持ちが育っている。学力は比較的高く、真剣に授業を受ける姿が常に見られる。

このような児童の素直な態度や教育の水準の高さを、今後も継続し現状を維持していくことが本校に求められる課題である。保護者・地域との連携を図りながら、児童の「生きる力」の育成と主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教育活動全般を通して、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の伸長、豊かな心や健やかな体の成長の促進に努めていく必要がある。

そこで本校における「平成31年度(令和元年度)運営に関する計画」のうち、下記の3つを校長経営戦略支援予算(基本配付)にかかる目標とした。

- ① 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- ② 校内の学習アンケートにおいて、「学校で学習するのが好きで、自分から進んで取り組んでいる」、「授業の内容は、自分ではよく分かっている」において、「そう思う」「ややそう思う」と答える児童の割合を昨年度と同等または向上させる。
- ③ 「本校の教育に関する児童アンケート」で、「人それぞれ違いがあり、いろんな友達と一緒に学ぶことでいい友達関係ができている」と好意的な回答をする児童の割合を85%以上にする。

2. 課題解決に向けた具体的な取組について

2-1. 具体的な取組

上記の3つの目標を達成するために、次のように考えた。特に習熟の度合いの低い児童にきめ細かい指導を行うために、習熟度別少人数指導コーディネーターや特別支援教育担当、学級担任が指導法について話し合い、児童が達成感や成就感を味わえるような指導を進めていくことが課題として挙げられる。また、様々な活動で他者とのかかわりを深めることにより、自尊感情を育むことができるようになることも大切な課題として挙げられる。

そこで、上記の課題を解決するために、(1)教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組」の一環として、「個々の児童に応じたきめ細かな指導と習得状況の把握」すること、「自分で考えて自分で答えを導き出せる力を向上させることをめざした将棋出前授業の実施」をすることを実施した。また、(2)「施策2 道徳心・社会性の育成」の一環として、「行事を通して、他者とのかかわりを深め、自尊感情を育む」こと、「音楽を通して子どもの情操を豊かにすることをめざし、吹奏楽に親しむ機会を創出する」ことを取り組むこととした。

2-2. 期待できる効果

取組内容(1)では、「個々の児童に応じたきめ細かな指導と習得状況の把握」するために、学習支援が必要な児童に向けて「学びサポーター」を活用することと、単元テストなど各教科の学習教材の充実を図ることにした。学習教材の活用と、大学生を中心とした学びサポーターを活用することにより、個々の児童の課題の把握とその課題に即した支援が図られることで、学習意欲の向上と理解の促進は、学力経年調査等の正答率向上につなげることが期待される。また、「自分で考えて自分で答えを導き出せる力を向上させることをめざした将棋出前授業の実施」するために、プロ棋士を学校に招聘して直接指導を受けることは、児童が自分で考えて自分で答えを導きだす力を向上させることができ、それが学力を高める原動力となることが期待できる。

取組内容(2)では「行事を通して、他者とのかかわりを深め、自尊感情を育む」ために、6年自然体験学習で指導員を確保し、活動内容を充実させることにより、互いの良さを認め合う良好な集団づくりにつなげられることが期待できる。また、「音楽を通して子どもの情操を豊かにすることをめざし、吹奏楽に親しむ機会を創出する」ために、大阪教育大学吹奏楽部を招き、迫力ある生の演奏に触れることにより、豊かな感受性を育てることへとつなげられると考えられる。

2-3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

①各教科学習教材の活用

個々の児童の学習の習得状況を客観的に把握するために、国語、社会、算数の単元テストを購入した。1人当たり年間8カ月分の単元テスト教材は児童の実態を具体的に把握するために活用した。

②学びサポーターの活用

授業中の児童の学習支援として、教員をめざす大学生の「学びサポーター」を、年間のべ387時間活用した。

③プロ棋士の招聘

日本将棋連盟に依頼し、プロ棋士1名を招聘し、児童への将棋教室を年間6回実施した。

④自然体験学習指導員の配置

6年生の自然体験学習を実施するにあたって、全行程を通じて児童に同行する指導員を2名配置した。

⑤音楽鑑賞会の実施

全校児童を対象に、大阪教育大学吹奏楽部を招き、音楽鑑賞会を実施した。

2-4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

取組内容(1)に対する達成状況：A

取組内容(1)においては、個々の児童に応じたきめ細かな指導と習得状況の把握できたこと、児童が自分で考えて自分で答えを導き出せる力を向上させることへつながったことにより、年度末に実施した校内アンケート結果から、「学習内容が分かる」と答えた児童の割合が94.0%と大変良好な結果を得ることができたことによる。

取組内容(2)に対する達成状況：A

取組内容(2)においては、行事を通して、他者とのかかわりを深め、自尊感情を育むこと、音楽を通して子どもの情操を豊かにすることをめざし、吹奏楽に親しむ機会を創出することができたことにより、年度末に実施した校内アンケートの自尊感情に関わる質問項目で、肯定的な回答をした児童の割合は各学年で89～92%となつたことによる。

3. 総論

3-1. 年度目標の達成状況、総評

年度目標の達成状況：A

校内の学習アンケートで肯定的な回答をしている児童の割合は、学習面・運動面・健康面とも90.0～96.8%となった。また、学力経年調査における標準化得点は前年度と比べて、各学年で-3.0～+1.0ポイントとなった。正答率が市平均の7割に満たない児童の割合は、前年度と比べて各学年で+10.3～-1.3ポイント、正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合は、前年度と比べて各学年で-4.0～+6.9ポイントとなつた。

以上の結果より、概ね目標を上回ったと考えられることから全体としては「A」評価とした。

3-2. 学校協議会における意見

学校協議会での討議の様子以下の通りである。

- 年度目標の達成状況については、各取組内容の進捗状況をふまえ、総合的にAとしたことを、校長が説明した。
- 校長の説明を受け、学校協議会において精査したところ、校内で適正に審議され、評価されていることを確認することができた。
- 大江小学校の自己評価結果は妥当であり、校長経営戦略支援予算(基本配付)に関する取り組みについては年度目標に沿って、円滑に進められていたと評価できる。

II. 加算配付について

1. 本校の現状と課題、年度目標

学力においては全体的には、特に課題は見られないが、昨年度の各種調査の結果から他の領域に比べて「書くこと」に関する問題において正答率が低くなる傾向がみられた。条件をもとに目的や意図に応じて内容の中心を明確にして詳しく書く問題については、児童に身につけさせたい基本的な力である。国語に限らず、書くことに重点をおいた取り組みの必要性があげられる。また、基礎・基本事項を確実なものにする必要があると考えられる。

そこで、「小学校経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させること」を校長経営戦略支援予算（加算配付）にかかる年度目標とし、課題解決に向けて取り組むこととした。

2. 課題解決に向けた具体的な取組について

2-1. 具体的な取組

上記の目標を達成するために課題となるのが、書くことを重点に置いた基礎・基本事項の確実な習得である。普段の学習の積み重ねにより、児童が達成感や成就感を味わえるような取り組みをしていくことが大切であると考えられる。

そこで、上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組」の一環として、「漢字検定合格を目的とした、個々の児童に応じたきめ細かな指導と習得状況の把握」をすることとした。

2-2. 期待できる効果

「漢字検定合格を目的とした、個々の児童に応じたきめ細かな指導と習得状況の把握」をするために、1月に実施される日本漢字能力検定に向けた学習の取り組みを進めることにより、漢字検定合格を目標に、児童の学習意欲の向上を図るとともに、国語科を中心に「読む」「書く」ための基礎学力を身につけることが効果として期待される。昨年度実施した漢字検定では、全校児童での合格率は87.0%であったが、今年度は昨年度以上の合格率をめざす。個々の児童の「書くこと」の基礎基本の力を高め、それにつながる学習意欲の向上につなげられること、また、検定の合格による達成感や成就感から、さらなる学習意欲の向上へつながることが期待できると考えた。

2-3. 具体的な実施内容

1学期より、朝の学習の時間や、1時間目後の「大江タイム」の時間などを活用して漢字の書き取り練習に取り組む。10月後半には漢字検定模擬テストを行い、中間期における自身の習得状況を児童に把握させる。その後は、令和2年1月実施の漢字検定に向けて、基礎基本の力を身につけようとする児童の意欲を高める。

2-4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

取組内容に対する達成状況：B

昨年度実施した漢字検定では、全校児童での合格率は87.0%であった。今年度は昨年度以上の合格率をめざしたが、今年度の合格率は全体で71.8%となり、全体としては下回る結果となった。しかしながら、学年相当級での年度比較では、小学5年生相当級6級で昨年度66.0%が今年度は73.3%(+7.3P)に、小学6年生相当級73.7%が今年度は73.0%(-0.7P)となり、概ね目標を上回ることができたことによる。

3. 総論

3-1. 年度目標の達成状況、総評

年度目標の達成状況：B

本校の小学校経年調査における標準化得点は、同一母集団の比較で昨年度 5 年生 104.1 が今年度 6 年生 101.1 (-3.0P) となったほか、昨年度 4 年生 106.1 が今年度 5 年生 105.2 (-0.9P) となり、昨年度 3 年生 105.8 が今年度 4 年生 106.8 (+1.0P) となる結果となった。全体的には 1 つの学年が向上、2 つの学年が低下という結果となり、概ね目標を達成できたものと考えられることから、全体としては「B」評価とした。

3-2. 学校協議会における意見

学校協議会での討議の様子以下の通りである。

- 年度目標の達成状況については、各取組内容の進捗状況をふまえ、総合的に B と したことを、校長が説明した。
- 校長の説明を受け、学校協議会において精査したところ、校内で適正に審議され、評価されていることを確認することができた。
- 大江小学校の自己評価結果は妥当であり、校長経営戦略支援予算（基本配付）に関する取り組みについては年度目標に沿って、円滑に進められていたと評価できる。